

自己評価と学校関係者評価の一覧

| 自己評価の説明 | | 今後の改善策等 | | A(4) | B(3) | C(2) | D(1) | 合計 | 平均 | % | 評価 | 広沢小カテゴリ | 自己評価・学校関係者評価 | 評価 | % | 平均 | 合計 | A(4) | B(3) | C(2) | D(1) | 自己評価の説明 | 今後の改善策等 | |
|---|--|---|--|-------|-------|------|------|--------|------|-------|----|------------------|--------------|-------|-------|-------|------|------|------|------|---|--|--|--|
| 前年度より0.7ポイント上昇。今年度から新たな学校教育目標を意識してその具現化に努めている様子が見られる。関連する保護者・子供のアンケートもそれを上昇している。一方、教職員が自分自身を振り返るアンケートにおいては、数値が下がっていることから、今後、一人一人が自信をもってその具現化に携わることができるよう、さらに意識を高めていく。 | | 教職員人事評価との連動及び事業の推進や、研究・研修において、その方向性を常に意識し、さらなる意識の醸成をしていきたい。また、保護者・地域への情報発信や、熟識等の交流において、その方向性を常に確認する。 | | 15 | 22 | 0 | 0 | 126 | 3.41 | 85.1% | B | 学校の組織運営 | 1 | B | 90.6% | 3.63 | 29 | 5 | 3 | 0 | 0 | 前年度とほぼ同水準であることと見られる。ポストコロナを念頭に、今年度から新たな学校教育目標に基づき学校経営方針を基に、具体的な方策を今年度実践してその効果を検証していく。今後さらなる模索していくことに期待する。 | 学校評価に基づき学校経営方針を基に、具体的な方策を今年度実践してその効果を検証していく。 | |
| 前年度より大幅に下がった。ICTを有効に活用し、会議の在り方やコミュニケーションの仕方に少しずつ改善がみられるものの、記述からは、負担の偏りがあったり、分掌によって活動の様子に違いがあらわさるようになってきた。主任にどうしても負担がかかってしまうことについて、組織の在り方等を検討し、令和5年度からの校務分掌の在り方について模索していきたい。 | | 各部会の組織の在り方や校務分掌全体を見直し、新しい形の業務遂行体制の構築を図り、その実践と効果の検証を行う。 | | 7 | 26 | 4 | 0 | 114 | 3.08 | 77.0% | C | | 2 | C | 81.3% | 3.25 | 26 | 3 | 4 | 1 | 0 | 自己評価の数値は下がっている。自己評価の記述から、負担の偏りがあったり、分掌によって活動の様子に違いがあらわさるようになってきたことなどがうかがえた。一方、新たな学校教育部など、必要な校務分掌をつくるなど、改善に向けて動き出していることなどがうかがえることから、次年度の在り方について期待したい。 | 校務分掌の在り方に追加役割分掌やフロー体制について検討し、全体で校務を担っている体制づくりをしていく。 | |
| 自己評価においては、数値的な改善がみられる。具体的な取組が結果として表れ始めている一方、自分自身の振り返りや、関係する保護者・子供のアンケートなどでは課題があったりするなど、一人一人の取組状況にフォーカスしてさらに改善していく必要があると考える。 | | 会議や校務分掌について、負担等に偏りがないよう、倫理確立委員会等での振り返りを通して、その在り方を検証・改善していく。 | | 16 | 21 | 0 | 0 | 127 | 3.43 | 85.8% | B | | 3 | B | 87.5% | 3.50 | 28 | 4 | 4 | 0 | 0 | 通知表の在り方も含めた子供の見取り方など、教職員の共通理解の下、様々な取組を進めていることなどがうかがえた。学校でできる範囲にも限界があることから、今後は、保護者や地域、また教育委員会と連携し具体的な取組を検討する必要がある。 | 引き続き学校でできる働き方改革への取り組みを継続するとともに、保護者や地域との連携を通して、改善していく。 | |
| 学校としての取組に関する数値は高くなっている。しかし、自分自身を振り返った時、働き方改革や風通しの良い職場づくりなど、やや数値が下がっていることから、教職員一人一人の自らの意識やコミュニケーション等において、さらなる改善が必要である。また数値の上下に関わらず、高い倫理観を持ち続けられるよう、研修等を通して意識を高めていく。 | | 業務に関するシミュレーション研修を定期的に行っていくとともに、不祥事防止に関する情報共有に努める。また長期休業中などの時間を利用して、ボトムアップ的な研修を行う。 | | 18 | 19 | 0 | 0 | 129 | 3.49 | 87.2% | B | | 4 | B | 81.3% | 3.25 | 26 | 2 | 6 | 0 | 0 | 質問と同様、なかなか見えにくいところだが、アンケートの結果等から、取組を進めていることなどがうかがえた。学校でできる範囲にも限界があることから、今後は、保護者や地域との連携を強化していくことと、継続した取組が必要である。 | 各学校での不祥事防止への取組等について、今後保護者や地域に向けて発信していくことも検討する。 | |
| 学校の安全への取組については、保護者や子供たちの数値は高まっているが、学校としての取組、自分自身の取組においては、数値が下がっている。コロナ禍の影響はたまたまにはないが、いざ災害が起ると、命を最優先し、被害を最小限食い止めるための安全への配慮、および危機管理体制の構築に具体的に取組んでいく。 | | 施設設備に関しては、優先順位等を確認し、市教委と連携しながら、修繕等具体的に対応していく。また、不審者等への学校安全体制についても現状を確認し、教職員の体制づくりに力を入れていく。 | | 19 | 18 | 0 | 0 | 130 | 3.51 | 87.8% | B | 安全・安心 | 5 | B | 87.5% | 3.50 | 28 | 4 | 4 | 0 | 0 | 施設・設備面では、校門の自由開閉など、防犯面での不安が大きいことが保護者アンケートから確認されている。学校はさらなる連携を通して、防犯情報の発信に努めている。今後、保護者・地域とどのように危機管理体制を構築していくか、検討していく必要がある。 | 引き続きさらなる連絡網を活用した情報提供等に努めていくとともに、見守りや「110」の活用、保護者・地域と連携した対策についても検討していく。 | |
| 今年度は、コロナ禍の中、久しぶりに全校校庭に集まることの避難訓練を行うことができた。そのことも含め、取組に少しずつ改善がみられるものの、例えば「アラート」など新たな育成への対応等も必要になっていることから、これまで行ってきた訓練・防災にかかわる教育活動を見直していく必要がある。自治体の研修等に参加するなど、新たな情報を常に意識して、対応していく。 | | 新たな危機に対応する訓練等を念頭に、現在の避難訓練等を見直し、実際に起こるであろう危機に対応した訓練等を行っている。また、教職員の研修等についても検討し、迅速に動く体制づくりに努めている。 | | 17 | 20 | 0 | 0 | 128 | 3.46 | 86.5% | B | | 6 | B | 84.4% | 3.38 | 27 | 3 | 5 | 0 | 0 | 様々な災害を想定した避難訓練を行っていることが伺える。いつどこで起こるかわからないことから、今後突然起こる災害を想定した訓練等は必要である。また、学校は非難の拠点となることから、その対応等に関する想定も必要。保護者や地域を巻き込んだ訓練等も、ポストコロナを念頭に検討していくべきである。 | 令和5年度は防災に関する具体的な取組を検討していきたい。 | |
| 学校としての取組では、数値的な改善がみられるものの、保護者、教職員の数値は前年度よりも下がっている。特に教職員一人一人の意識改革に大きな課題があることから、今年度行った熟識の話し合いの内容を具体化し、教職員一人一人の意識を高めていきたい。 | | 学校の教育活動への支援等の機会をさらに増やし、子供たちとの一緒に活動を通して、子供たちの様子を見守るとともに、学校教育への参加・参画につなげていく。 | | 17 | 16 | 4 | 0 | 124 | 3.35 | 83.8% | B | 家庭・地域連携 | 7 | A | 93.8% | 3.75 | 30 | 6 | 2 | 0 | 0 | 進捗はではあるが、コミュニティ・スクールとしての取組を進めていることは伺える。今後、コミュニティ・スクールとして検討された学校づくりの内容を具現化し、実践できるようにしていくことが必要。 | 今年度までの実践に引き続き、教職員や保護者・地域の方の意識を高めていく取組を行っていく。 | |
| 「質問⑦」と同様、学校全体としての取組の数値は上がっているものの、保護者、教職員の数値は下がっている。熟識等を含めた新たな地域との連携づくりに始めて2年が経過するところだが、中学校区に発足した地域学校協働活動や現在設立中の地産地消推進協議会等の動きとさらに連携し、「地域の子どもたちは地域で育てていく」という意識をさらに高めていきたい。 | | 「質問⑦」と同様、学校や子供たちの様子を見守るとともに、子供たちのかかわりの良さを感じてもらえるよう、保護者・地域の方々の学校教育への参加・参画の機会を醸成していく。 | | 14 | 21 | 2 | 0 | 123 | 3.32 | 83.1% | B | | 8 | C | 78.1% | 3.13 | 25 | 1 | 7 | 0 | 0 | かわら版等、学校発信のたより等は、一定の効果があるが、保護者、地域と目標や内容を共有するために、さらなる取り組みが必要となると思われる。どのようにしていくかも含め、次年度の課題・検討材料としたい。 | 地域連携に係る年間の計画等を作成し、保護者や地域とどんな活動があるのか、見える形にしていきたい。 | |
| 自己評価はほぼ横ばいだが、保護者、子供、教職員自分自身それぞれアンケートではいずれも数値が高くなっている。今年度から新たな子供の見取りをスタートしたが、保護者と教職員が同じ目線で子供たちとのことを見届けることができ始めていることから、高学年の算数の習熟度別学習についてのコメントも肯定的なことから、子供たちのコースや状況にあった学習を進められるように今後努めていく。 | | 習熟を重なる学習の機会や、つまづきに対応する補完的な学習の機会を今後も醸成し、一人一人の基礎学力を高めていく。 | | 14 | 23 | 0 | 0 | 125 | 3.38 | 84.5% | B | 豊かな学び | 9 | B | 90.6% | 3.63 | 29 | 5 | 3 | 0 | 0 | アンケート等の結果から、学校全体の取組について、一定の評価ができる。一方で、教員の指導力には差があることから、その差をどう埋めていくか、さらなる学校としての取組を検討すべきである。 | 学校としての取組をさらにブラッシュアップしていき、教員の指導力差を埋められるような支援体制を構築していく。 | |
| 自己評価はほぼ横ばいだが、保護者、子供、教職員自分自身それぞれアンケートではいずれも数値が高くなっている。今年度から新たな子供の見取りをスタートしたが、保護者と教職員が同じ目線で子供たちとのことを見届けることができ始めていることから、高学年の算数の習熟度別学習についてのコメントも肯定的なことから、子供たちのコースや状況にあった学習を進められるように今後努めていく。 | | 主体的な学びのあるべき姿を確認し、授業実践を通してその具現化に努めていく。また、研究・研修を通して子供たちの表現力を高める指導改善に力を入れていく。 | | 17 | 20 | 0 | 0 | 128 | 3.46 | 86.5% | B | | 10 | B | 81.3% | 3.25 | 26 | 2 | 6 | 0 | 0 | 授業参観等で、指導や学習の様子を確認できるようになったことは、とても良いことである。中でも、子供たちの主体性を重視し、他者との対話による学習展開が進められていることなどがうかがえた。今後は、PBL(Project Based Learning)など、探究型学習の導入等を検討するなど、さらなるアクティブラーニングの展開に期待したい。 | 校内研究における取組の方向性も本項目の指導の充実と合致していることから、探究的な学習の在り方を検討するなど、子供たちの主体性をさらに伸ばす取組に期待する。 | |
| 自己評価の数値は約89%と、高いレベルでほぼ横ばいである。子供のアンケートにおいては、タブレットの積極的活用における学びの数値が前年度比約16%増で、大幅に伸びている。一方、教職員一人一人が自分を振り返ったところでは、数値が下がっていることから、自分の取組等に「自分自身が得意な状況」ももたせられるよう、他校の先進事例等を研修等で学ぶ機会を今後醸成していきたい。 | | ICTや外国語をツールとして活用できるよう、子供たちの発達段階や系統性に留意しながら、6年間でどんな学びが展開できるかを整理していく。その際、他校の先進事例を積極的に活用し、研究発表会等へ積極的に参加していく。 | | 20 | 17 | 0 | 0 | 131 | 3.54 | 88.5% | B | 豊かな学び | 11 | B | 84.4% | 3.38 | 27 | 3 | 5 | 0 | 0 | 学校は、外国語等の学習やICTの活用など、これからの時代に必要な学力の育成に力を入れている。 | タブレット端末の活用が進められていることが、子供のアンケート結果から伺える。今後も継続した取組をしてほしい。各学年等での取組に加え、タブレットの取扱いなどについてもさらなる検討・改善が必要。保管や家庭での使用について、改めて確認してほしい。 | タブレットの家庭での扱いや、持ち物の整理等、進捗としてタブレットの在り方も含め、さらに充実した取組に期待する。 |
| 自己評価の数値は少し上昇している。また、教職員一人一人の振り返りにおいてのカリキュラムマネジメントへの意識も高まってきていることがうかがえるが、数値的にはやや低い水準である。週日、今年度の研究・研修の振り返り・まとめを行ったが、子供たちの表現力を高めるためのカリキュラムをどうマネジメントするかという視点を出してきたことから、次年度以降、具体的に研究を進めていきたい。 | | 具体的な計画づくりや教育課程の編成を通してさらに認識を高めていく。その際、研究・研修を通してその知見を高め、より良いカリキュラムを編成できるようにしていく。 | | 13 | 23 | 1 | 0 | 123 | 3.32 | 83.1% | B | | 12 | C | 78.1% | 3.13 | 25 | 1 | 7 | 0 | 0 | ICT活用では、各教科等を越えた取組が進められている。今後子供たちの資質・能力ベースでカリキュラムをマネジメントするなど、教科横断的なマネジメントを進めてほしい。 | ICT活用での主体的・対話的で深い学びの追究を通して、教科を横断した資質・能力ベースのカリキュラムの在り方を検討してほしい。 | |
| 自己評価の数値も上昇し、90%の高い数値となっていることから、今年度の取組が功を奏していることがうかがえる。保護者のアンケートの数値も上昇していることや、教職員一人一人の振り返り数値も大幅に伸びていることから、全体で協働していることなどが確認されている。今後取組をブラッシュアップしながら継続し、よりよい学びの環境づくりとして、学習規律の確立を図ってほしい。 | | フォームを活用した子供たちの振り返りを今後も継続していく。また、教職員の共通行動・共通指導も効果的に行っていることから、部会での共有を進め、学校全体での取組を継続していく。 | | 22 | 15 | 0 | 0 | 133 | 3.59 | 89.9% | B | 子供の成長・育ち／学校の教育活動 | 13 | B | 84.4% | 3.38 | 27 | 3 | 5 | 0 | 0 | 学校として共通理解を通じた取り組みが進められているものと考えられる。今後も子供たちの様子を見守りながら、継続した取組に期待する。 | ICTを活用した新たな取組も引き続き行うとともに、集団で学ぶ特徴を生かして、一人一人の学習規律の確立を図ってほしい。 | |
| 自己評価はほぼ横ばいである。よくあてはまる」を選択した教職員が多いことから、一人一人の意識が高い。一方、教職員一人一人の振り返りの数値がやや下がっていることから、教職員の間でも子供への対応に自信がないものもいるのではないかと考える。保護者・子供のアンケートの数値は上昇していることから、現在の取組を改めて再確認し、教職員一人一人が自信をもって指導できるような、共通理解を進めていきたい。 | | 学校としての共通理解・指導志向を継続しつつ、特に若手や経験浅い教員や、事情を抱えた教員など、個々の教職員への相談や声掛けなどの働きかけを強化していく。 | | 25 | 12 | 0 | 0 | 136 | 3.68 | 91.9% | A | | 14 | A | 90.6% | 3.63 | 29 | 5 | 3 | 0 | 0 | 特にいじめ防止対策など、子供たちを守る観点での取組への意識が高く、継続した取組が行われていることが伺える。今後も高い意識を継続し、子供たちに寄り添い、子供たちを守ってほしい。 | 学校での取組に加え、家庭や地域での取組の充実が必要。学校との共通理解や子供への声掛けの在り方など、さらに連携していく。 | |
| 自己評価は、前年度よりも少し上昇した。また子供のアンケートの数値は大幅に上昇しており、子供自身も学習規律のある態度をためているよううかがえる。今年度から、毎月、子供自身が学習規律等について振り返る機会を、タブレットのアンケートを通して行っていることも、意識を高めた要因の一つではないだろうか。 | | 質問⑩と同様、フォームを活用した振り返りを継続し、取組や振り返りを見える化して学校全体の意識を高めていく。また、部会での情報交換を引き続き行い、学校全体としての取組を継続していく。 | | 20 | 17 | 0 | 0 | 131 | 3.54 | 88.5% | B | 豊かな心 | 15 | B | 84.4% | 3.38 | 27 | 3 | 5 | 0 | 0 | 各種アンケート結果からその様子は伺えるが、具体的な様子等がまだ見えにくい。指導の工夫・改善等について、保護者・地域に発信していくことも取組を検討してほしい。 | 質問⑩と同様、ICTを活用した新たな取組も引き続き行うとともに、個に応じた指導の充実を行っている。またその様子等を保護者・地域に発信していく取組も検討していく。 | |
| 「質問⑩」と同様、子供のアンケートの伸びから、規律ある態度が身に付いてきている様子が見られる。具体的に振り返る場面を醸成したり、異学年での交流が少しずつ増えたこと、上級生と他者の様子から学んでいることも見られる。次年度以降も課題を洗い出し、その改善に向けて、焦点を絞って取り組んでいきたい。 | | 質問⑩の取組に加え、家庭との連携を密にし、指導の効果を高めていく。 | | 16 | 21 | 0 | 0 | 127 | 3.43 | 85.8% | B | | 16 | B | 90.6% | 3.63 | 29 | 5 | 3 | 0 | 0 | 児童は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた規律ある態度を身につけている。 | 発達段階に応じた取組を通して、子供たちは成長していく。子供の実態を常に捉えるとともに、社会における動向等を把握し、何のために、どのような指導・支援をしていくのか、今後とも検討し、取り組んでほしい。 | |
| 自己評価の数値は若干下がっているものの、ほぼ横ばい。一方、保護者・子供・教職員の数値は少し上昇している。昨年度と同様に教職員の数値が低い。昨年度に比べて子供たちが外で元気に遊んだり、体育の時間に思いっきり運動したりする機会も増えているように思うが、今後さらに健康や体力向上の観点から体を動かすことを推進していきたい。 | | 子供たちが思いっきり活動できる環境づくりを、今後も継続していく。 | | 22 | 14 | 1 | 0 | 132 | 3.57 | 89.2% | B | 17 | B | 81.3% | 3.25 | 26 | 3 | 4 | 1 | 0 | 外で元気に遊んでいる様子は、これまでと同様に伺える。広沢小の一つの特徴ではないが、これは先生方が一緒に遊んでいることがその要因としてあげられると思う。今後、地域の方との交流や様々な行事の実施なども検討してみてもどうか。 | 引き続きこれまでと同様子供たちが元気に遊べる環境を整えるとともに、地域の方の交流等新たな取組についても検討していく。 | | |
| 自己評価及び教職員の自分自身の振り返り、いずれも数値が低い。コロナの影響がまだ残っていることが要因ではないかと考える。一方、子供自身は、体育や外遊び等、体を動かすことへの興味関心が高い。今後のコロナ禍の状況を踏まえながら、具体的な活動の醸成等を通して、意図的な向上に努めていく。 | | 部会を中心に、実際に行っている体力向上策を確認するとともに、ポストコロナを見据えた新たな方策を検討・実践していく。 | | 12 | 18 | 7 | 0 | 116 | 3.14 | 78.4% | C | 健康・体力 | 18 | C | 75.0% | 3.00 | 24 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | コロナの影響もあり、なかなか取組が難しい。昨年度に比べ少しずつその取り組みを進めているので、その様子を保護者・地域にわかるよう発信していくことも重要である。今後の取組や発信に期待したい。 | 少しずつ体力向上に係る新たな取組が進んでいるので、その様子を保護者や地域の方にも発信していくことと、保護者や地域を巻き込んだ取り組みに期待する。 |
| 自己評価の数値は上昇しているが、教職員が自分自身を振り返った数値は減少している。保護者や子供の数値は少し上がっているもののほぼ横ばいであることから、健康への関心が高いが、意図的に高められていないところがあるのかもしれない。コロナ禍の状況にもよるが、食育や健康教育等により一層力を入れ、教職員一人一人の意識を高めていきたい。 | | 体制を整備し、具体的な取組を計画・実践していく。 | | 14 | 22 | 1 | 0 | 124 | 3.35 | 83.8% | B | | 19 | B | 81.3% | 3.25 | 26 | 2 | 6 | 0 | 0 | 給食では、季節感のあるメニューなど、子供たちを職の面から支えている様子が見られる。また、体の健康についても、子供たちの意識が高いため、学校としての取組も進められている。今後、保護者・地域と連携し、新たな指導支援の在り方を模索していく。 | ポストコロナを見据えた、学校における健康教育や食育等、これまでできなかったことを結ぶことが伺える。ポストコロナを念頭に、今後さらなる取組等ができることを期待する。 | |
| 自己評価における教職員の意識は高い。教職員が自らを振り返った数値は若干下がっているものの、85%を超える高い数値であることから、学校で子供たちのよさを意識する指導・支援は進んでいるものと考えられる。子供のアンケートで、自己肯定感ややや下がっていることから、子供たちがさらに自信を付けられるよう、児童理解に努めていく。 | | 子供主体の授業実践を通して、子供たちによる気と自信をつけていく。 | | 26 | 11 | 0 | 0 | 137 | 3.70 | 92.6% | A | 自己肯定感 | 20 | A | 93.8% | 3.75 | 30 | 6 | 2 | 0 | 0 | 日頃からの教員と子供たちの関係性の良さが見える。互いに尊敬しあう気持ちがとても大切である。いじめを許さず、子供たちを守るという思いと本真問の子供の良さを理解しようとする思いは、いずれも欠かせない思いであることから、引き続きその不撓の努力に期待する。 | 学校での教員の声掛け等は引き続き行う。また、保護者や地域の方も積極的に子供たちと関わるような取組を検討していくことと必要である。 | |
| 自己評価、保護者・子供、教職員自分自身のアンケートすべて項目で上昇傾向がみられた。学習に関するアンケートでも、タブレット端末の活用が改善がみられたこと、これからの時代に必要な知識や技能などを蓄え身に付けられるようになっていることと考える。教職員の自分自身の振り返りにおける数値が低いことから、自信をもって育成に努められるよう、研究・研修等を進めていきたい。 | | 新たな挑戦、最後まで粘り強く取り組むこと、他者との協働を、それぞれの授業実践の中で子供たちに働きかけていく。 | | 16 | 21 | 0 | 0 | 127 | 3.43 | 85.8% | B | | 21 | C | 78.1% | 3.13 | 25 | 1 | 7 | 0 | 0 | アンケートの結果から、子供たちの様子も少しずつ良い方向に進んでいることが伺える。一方で、新しい時代を生きていく児童に必要な力をどうとらえるかは難しく、熟識等を通して保護者・地域と共通理解を図る必要もある。一緒に子供たちを育んでいくことを念頭に、今後具体的な方策等検討したい。 | これからの子供たちに必要な力をその観点で、意図的に身に付けられるよう、保護者や地域の方と連携し、学校、家庭、地域が捉えていくことが必要である。 | |
| ※黄色枠は本校オリジナル、薄青枠は市教委指定 | | | | 17.14 | 18.90 | 0.95 | 0.00 | 127.19 | 3.44 | 85.9% | 平均 | 22 | 平均 | 84.7% | 3.39 | 27.10 | 3.29 | 4.52 | 0.19 | 0.00 | ※黄色枠は本校オリジナル、薄青枠は市教委指定 | | | |